

日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 地方会ニュース編集事務局

〒 470-1192

愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98

藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学教室

室内 電話 (0562) 93-2453

FAX (0562) 93-3079

発行責任者 竹内康浩・島 正吾

(題字 皿井 進筆)



イタリア、ポローニヤの“柱廊”的建築物の一部、国際医史学会総会の折同市を訪れた。サレルノ大学およびパリ大学と並び世界最古の大学の1つであるポローニヤ大学で学会は開催された。町には“柱廊”といわれるアーケードからなる街路が保存されている。町を散歩している私に対して、「スシー、テンプラノ」と陽気に呼ばれた時は、さすがイタリアだと感心した。

学校医と産業医

竹内 宏一 (浜松医大公衆衛生)



学校において医師が関与するのは、もっぱら学校医(校医)と見られがちである。しかし、教職員は産業医が対象とすべき集団である。静岡県内の県立高校では、認定産業医の資格を持った医師を校医に委任することによりやくなったと聞く。他県では既にこうした方針のところがある。しかし、小学校、中学校など教職員50人未満の学校ではこれからの課題が多い。もちろん、学校医には産業医のような専門医制が導入されていない。私は学校医も専門医制になるべきだと考える。そうなった場合の学校医には、教職員の健康管理について当然専門的能力が要求される。

とかく学校医活動は慈善的傾向が強いように見受けられる。一方、サービスを受ける側もクリニック内での診断や治療よりも学校医活動を軽く評価しているようである。しかしながら、考えてみるに医師本来の任務は、健康的な生活はどのようにしたらよいかを指導するのが大事である。このことは、医師法の第一条に「医師は、医療及び保健指導を掌ることによって公衆衛生の向上及び増進に寄与し、

もって国民の健康な生活を確保するものとする」と明確にうたわれている。

つまり、実地医師にとって学校保健活動は地域(狭義)保健活動と産業保健活動と並んだ3本柱の1つであり、その本来の職務を遂行した場合には、当然正当な報酬を受けるべきである。また、サービスの受け手である国民にもそのように働きかけるべきである。長年にわたる校医活動に対して表彰するのは結構なことであるが、ボランティア的活動として位置づけるべきではない。そのような状況に安住しては、自立と自律すべき職能団体としての医師の怠慢といわれても仕方がない。

さて、産業医と学校医にまたがる課題も多い。例えば、学校における定期健康診断などの貴重な健康情報を、プライバシーなどの問題があるものの生涯保健の観点からも是非産業保健と結びつけて活用したい。加えて、産業医は、労働者が学校における時代によどのような健康管理と健康教育を受けて来たのかを理解したうえで、より効果的な活動を展開することが望まれる。いづれにしても、“働く、と”学ぶ、の二大機能集団の健康面における有機的なつながりが求められている。

平成9年度東海地方会学会を担当して

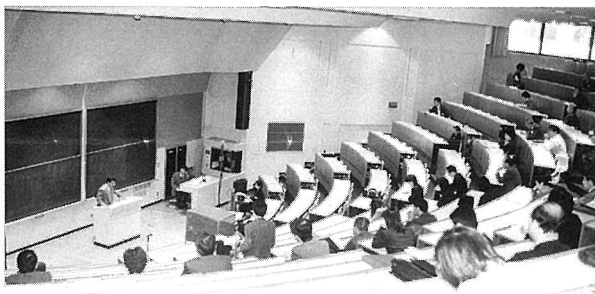
小林章雄 (愛知医大・衛生)



平成9年度の日本産業衛生学会東海地方会学会をお世話させていただいた。学会は、11月7日(金曜日)に愛知医科大学を会場として行なわれ、よいお天気にも恵まれ、多数の方々(208名)の参加をいただいた。今回は愛知県医師会との共催という形で、日本医師会認定産業医研修会の「基礎・後期」または

「生涯・専門」の3単位が認定されたこともあり、医師会の先生方の参加も多かった。午前中は18題の一般演題が2会場にて発表され、各座長の先生方のご努力下、活発なディスカッションとなった。ただ、演題数が思ったより少なく、寂しくもあり、事前の広報活動の不充分さを反省した。午後からは学会長挨拶に引き続き、特別講演とシンポジウムが行われた。特別講演は「女性の労働と健康」と題して、北海道大学医学部公衆衛生学教室の岸玲子教授にご講演をいただいた。社会の高齢化を前に、女性の能力発揮がますます求められる中、1999年4月からの労働基準法の女子保護規定の撤廃が予定されるなど、働く女性の健康については検討されるべき点が多く、産業保健の今日的な重要課題の一つであり、国際的にも注目されつつある領域なので、ご講演いただくこととした。岸先生には、わが国における女性労働の現状を国際的比較などを通じて詳細に明らかにしていただいた上で、女性の労働と健康を考える視点、女性労働者の健康をめぐる問題について、心理・社会的要因から生物学的要因に至るまでを幅広く論じていただいた。また、「見える規則」から「見えざる掟」に至るまでの様々なレベルでの改善、社会的サポート、家庭での家庭責任の分担などについて、今後の男女協同社会へのあるべき方向性を御指摘いただいた。明解で示唆に富み、印象深い講演となった。

シンポジウムは、「職場の健康、子どもの健康、職域での健康支援のあり方を考える」をテーマに、飯田英男、巽あさみ両先生の司会で5人のシンポジストを迎えて行なわれた。各国において、子どもの健康は将来の豊かな労働生活を考える際の基本的要件であるとの認識が高まりつつある。わが国の職場のあり方と子どもの健康との関わり、また職場のストレス対策や、ライフスタイルの向上へむけてのTHP活動などが、勤労者自身の健康にとどまらず、その向こうにいる次世代の子ども達に届きうるのかなどについて討論をお願いした。演者の上嶋正博先生、近藤正人先生、杉本日出子先生、藤田定先生、川上憲人先生がそれぞれのお立場から、この難しいテーマに取り組んでくださり、結論は出ないものの啓発されることの多いシンポジウムとなった。司会の両先生の事前の熱心な打ち合わせ準備に負うところが大きめで、心より感謝申し上げたい。今回の学会をお世話させていただくのにあたり、事務局を引き継いだ時期が、ちょうど教室を引き継いでまもなくのことでもあり、周到な準備や配慮に欠けることが多かったのではないかと反省している。不行き届きの点についてお詫び申し上げると同時に、ご協力いただいた各位に、盛会裡に終えることができたことを感謝申し上げる次第である。



(一般演題発表)



(岸 玲子 先生)



(会場風景)



(シンポジウム)

新春随想

大学を転じて



小野 雄一郎 (藤田保健大・医・公衛)

新年あけましておめでとうございます。すでに諸先生方にご連絡申し上げましたように、昨年10月に藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学講座の教授職を拝命致しましたので、以下、随想ならぬご挨拶となりますことをお許し下

さい。この度、他ならぬ島正吾先生の後任として選考されましたことを大変光栄に感じております。これまで、本講座においては、多くの人材が輩出し、外部諸機関との間に広範なネットワークが形成されてきました。私はこのような伝統を継承し、労働衛生学を中心とする研究・教育、対外活動の発展に努力したいと考えております。また、名古屋大学在職中は竹内康浩東海地方会長の元で事務局を転任直前までの2年間務めさせて頂き、地方会の諸先生には大変お世話になりましたが、今後もこれまで以上にご支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

大学を転じての印象を書かせて頂くと、設立基盤のみならず建物の構造、教育の比重、職員間のヒエラルヒー、意志決定システムなどの大学としてのハード・ソフトのいずれもが全く異なる別世界に足を踏み入れた感が強く、やや“カルチャーショック”を受けました。一方、医学部の教授会だけは、何やら昭和40-50年代の名古屋大学の雰囲気によく似ていて毎回きわめて活発な議論が交わされ、大学の発展を願う多くの教授の強い意志がひしひしと伝わってきます。新米教授としては、未来に光明を見出せるような気持ちにさせられます。また、名大の時と同様に講座内の人間関係が円満なことや、医学部をはじめ衛生学部や短大等の学生達の若々しい雰囲気が学園内に満ちていること、周辺に緑が多いこと（ただし、夏が出没するらしい）など、良好な環境で働けることを嬉しく思っております。いずれにしても、現在の私の立場は、新たな場と権限を与えられ、心理的なdemandとともに意志決定の自由度も増大し、周囲のサポート体制も広がった状況と認識されますので、良い環境条件に安住せず、これまでよりも発想を豊かにして多くのことに挑戦する指向性が大切であると感じております。最後に、再度、諸先生方にご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

グローバル・スタンダード



小林 章雄 (愛知医大・衛生)

平成10年の新春を迎え、会員の皆様方のご健勝を心からお慶び申し上げます。

昨年10月10日に開催された第6回日本交通医学工学研究会学術総会のパネルディスカッションに参加させていただいた折、自動車基準認証国際化研究センターの水野慶之氏による「自動車安全基準の国際調和について」と題する特別講演を拝聴することができた。日本をとりまく自動車の安全基準の国際調和と相互承認をめぐる組織や動きを中心に詳細に解説をいただいた。自動車の安全性という重大かつ普遍的な問題について、国際基準の調和への大変な努力が行なわ

れていること、にもかかわらず、なお克服すべき課題が山積しており、わが国での一層の活動が必要なことなどが理解できた。また、11月7日の平成9年度日本産業衛生学会東海地方会学会において、山田信也先生は「産業衛生における測定と評価の標準化」と題し、ISO（国際標準化機構）と日本の活動について振動とその影響、人間工学を例として口演され、わが国でのとりくみの活性化の必要性を指摘された。そろそろというべきか、あるいはとっくにというべきか、グローバル・スタンダードを念頭においた諸活動が強く求められていることが痛感される。昨年起こったさまざまな経済上の出来事にみられるように、そうした要請が、個々の基準値や測定法のみならず、国際社会の動向と連動するわが国の諸システム・組織のあり方全般に広く及んでいることは明らかである。産業衛生の領域でのわが国での実践と学術研究の成果を、国際基準の調和という流れの中で積極的に生かしていこうとする努力が、今後ますます重要な意義を持つと思われる。ワールドカップサッカー予選のジョホールバルでの勝利のあと、「これで世界に行ける」と日本の若い選手は胸を張った。よく技を磨き、彼等の特徴を生かしたストラテジーを柔軟に用い、連携よく気合をいれて自らを表現するとき、新しい世界が豊かに開かれるのであろう。

日本で働くのは大変?!



柴田 英治 (名大・医・衛生)

95年の10月から昨年の8月まで大学での仕事には休職手続きをとり、スウェーデンの国立労働生活研究所で仕事をしておりました。今年は意を決して日本で働く覚悟を決めなければと思っています。というも帰国して早

くも5カ月になりましたが、まだ私自身が日本の環境に十分に慣れたとはとてもいえないのが実情だからです。スウェーデンにいる間はある意味ではお客さんであり、経済的にはやや苦しい思いをしましたが、広々とした研究室と実験室で仕事ができることと、常勤職員でないことで研究以外の仕事は殆どはいらぬことによる精神的な余裕で私は快適さを満喫していたように思います。

日本の自分の職場に戻って最初に感じた何とも言えない圧迫感、程なく向こうでの職場に比べてはるかに狭いスペースに多くの物がひしめき合っていることによるものだとわかりました。さらにもう一つ私が感じ始めた圧迫感の一つの仕事を始めようとするとその途端にいろんな別の仕事が入ってきて、そのうちに今何をやっているのかわからなくなってくる不自由さによるものです。もちろん日本にいれば私は常勤の職員になっていて、それなりの仕事があるのは当然なのですが、スウェーデンで同じような立場にある人と比べても多忙さという点では明らかに違うというのが実感です。

このような物理的にも時間的にも余裕のない職場の状況を改善しようと思ったら、そのための勉強や会議や書類作りも必要、さらに忙しく働かなければならないでしょう。労働衛生先進国スウェーデンと日本の労働条件の比較は興味の尽きない研究課題だと思いますが、歴史的、経済的、文化的な背景の違いを考えなければ理解困難な点も多いようです。これからしばらくは日本のきびしい職場に適應する努力をしつつ、こういう問題も考えていきたいと思っています。

海外旅行の思い出



近藤 順一郎 (ヤマハ発動機)

新年おめでとうございます。私達の会社の健保組合による海外医療巡回も七年になります。あまり観光地は在りませんが、仕事の合間に付近を見て回るのも楽しいことです。昨秋はブラジル、アルゼンチンを回り、アマゾンや本場のタンゴを見る事が出来ました。前回のUAEの砂漠や、成都の杜甫草堂、武侯祠、重慶のバンド等も印象に残ります。又事故の社員を中国へ迎えに行き、入国管理を通らず救急車へ直接に乗れたのも貴重な経験でした。

今回の出張は丁度地球の裏側で時差がこたえました。ロス経由でサンパウロ、ブエノスと三十時間の間に昼、夜が二回づつ来て完全にリズムが狂ってしまいました。昼はやたらに眠く欠伸の連発で、夜は二時には頭がさえて起きてしまいます。十日間位だめでした。

生来粗忽な所が有り失敗も数々あります。初めての出張の時、トランクの鍵を家に忘れて空港で気づき、カバン屋に飛び込んで壊して新品を買う破目になりました。次回は数字の鍵にした所、その数字のメモをトランクの中に入れてしまい、又買い直しかと思いましたが、ホテルで一つづつ数字を変えながら試して遂に開ける事が出来ました。二時間位かかりました。三桁の数字の鍵でしたが四桁だったらお手あげでした。ホテルの立派なルームキーを持ち帰り、急いで出張者に託した事もあります。家族に大きな請求がくると脅かされましたが何も来ませんでした。今回の出張は熱帯でしたのでラミシールクリームを持参し洗面具と一緒に入れた所、それで歯を磨いてしまいました。目に入れるなど書いてありますが、口は大丈夫の様です。今年は古希、失敗もこの辺で終わりたいものです。

産業衛生と自分

——新年にあたって思うこと



金森 雅夫 (浜松医大公衛)

私は奈良医科大学を出て、大阪大学ついで滋賀医科大学で、当時の重大問題であった騒音、振動障害の生体影響を中心に研究を進めていたが、疾患の疫学統計に強い関心をもった。その後、国立公衆衛生院で肝硬変の死亡構造についてDr. Public Health、筋ジストロフィーの遺伝疫学で学位をいただいた。昭和60年、科学技術庁の長期在外研究員として米国に出張し、ゲノムの数理解析の父であるモートン教授のもとで遺伝疫学を専攻した。

昨年(平成九年)元阪大教授の丸山博先生・後藤稔先生・中川米造先生が御亡くなりになられて、同窓生の一人としてさびしい限りである。後藤先生にはこの道に入るときにずいぶん進路のことでお世話になった。留学から帰ってお会いしたとき、「よかった、よかった」と喜んでいただいたのが今でも記憶に残っている。労働衛生研究を一旦中止したがイデオロギー議論にあきあきしていたからだと思う。科学的に中立でなければならぬと思うようになったのも後藤先生のお酒のお話のおかげである。また、中川先生の医学概論のゼミで麻酔や近代医学の発達を原著で読んだことが、ものの考え方の基礎となっている。ご冥福を祈ります。

変な新春随筆であるが、現在松下電器グループの産業医をやり、

産業衛生の研究では、文部省の科学研究費をいただいて、糖尿病の予防(分担)と農機トラクター作業における低周波音暴露の15年後の追跡調査(主任)をやっていますので(予定)、諸先生方の御協力を願います。昨年は、松下の藤木幸雄先生からVDT作業について産業指導をしていただき、静岡の清水善男先生と研究会で御一緒し、お話をうかがって労働と生活をみる視点がいかに重要かをあらためて勉強し、本田技研の鎌田隆先生から有益な講義をしていただきました。産業医の指導などまだできない私ですが今後よろしく願い申し上げます。

高令社会と産業保健



木村 英道 (三菱電機静岡)

明けましておめでとうございます。会員の皆様には元気で新しい年を迎えられ、気分も新たに今年の計画を立てておられることと思います。昨年3月末で岐阜県を退職し、4月から清水先生の御世話で三菱電機(株)静岡製作所に勤めることになりました。かつて岐阜県の企業にいたころ静岡県で活躍しておられた先輩の先生方が、今でも元気で活躍しておられ、久しぶりに御会いして大変なつかしい思いでした。私には久しぶりの産業の現場での仕事、期待と不安が入り混っていますが、皆様に御指導をいただきながら、一生懸命がんばるつもりでおります。よろしく御願います。

私が産業現場からはなれていた20数年の間に世の中も大きく変わり、高令社会の到来でいろいろな問題が生じています。産業保健の分野でも従業員の高令化、とりわけ定年延長に伴う高令労働者の健康の維持と労働能力の確保は、きわめて重要な課題で、老人医学会との連携を旨とした共同研究や協力体制の整備が必要と考えます。

一方、従業員の家族は市町村行政の保健事業の対象者であり、保健と福祉事業は市町村の職員が担当しています。「ねたきり」「痴呆」「精神障害」などは労働者にとっても大変な問題で、福祉事業にも関心を深め、当該する部門との連携を密にした活動を展開してゆることが必要と考えます。

縦割行政の壁は厚く交互の連携はむづかしいかも知れませんが、少なくとも第一線の現場では連携を深め、各部門が協力して働く人々の健康と福祉を守るための仕組を構築し、健康で幸せな生涯をすごせられるような社会の形成を夢見ています。

また産業界の重要課題である環境汚染や産業廃棄物対策にも、産業医としての対応を考えなければならないと思っています。

心に鍵がかかっている



石田 光代 (トーエネック)

今年の晩夏はスッと涼しくなり、10月中旬また暖かいとか暑さを感じる秋の気候であった様に記憶している。こんな季節が流れている中、一本の電話が入って来た。支店の同僚の保健婦からで今年7月に異動した従業員が8月上旬から無断欠勤していて相談にのってほしいという内容のものであった。当事者は入社時から時々胃が痛いとか、かぜをひいたと言って健康相談室を訪れていたので私はよく知っていた。その都度症状やもろもろの話聞いて対応し、世間話や自分の思っ

いる事も話す程親しくなった。異動前は結婚してから肥満傾向になって来たという体脂肪の測定にも訪れていた。そして「異動になりました。」と元気に赴任して行った。

さっそく気になって夕食時ならと自宅を訪ねて見た。新築のマンションでセキュリティが掛っていて部屋の前まで行けずマンションの入口で彼の部屋番号を押しても応答はなく空しく帰宅した。2日間彼の自宅に電話をかけたが「留守にしているのでおかけ直し下さい」のメッセージが流れるばかりだった。思案の末彼と仲好くしていた同期の従業員に話し、連絡を取ってもらう事とした所半月後午前2時にやっと電話が通じ彼と会ってくれた。それがきっかけで私も会う事が出来、メンタルの産業医に繋げ診断をして貰いもう少し休養して出勤という事になった。

いつも明るくパワフルで協調性もあり、仕事熱心な人が転勤という環境の変化と職場の人間関係、家族の病気や妻とのコミュニケーション

のまずさからこんなに見事にメンタルの問題へはまってしまった事に私自身動揺した。便利になった生活環境、セキュリティがしっかりしており、ボタンさえ押しておけばメッセージが流れる電話、外部とのシャットアウトはいつも簡単に出来る。3カ月もの間連絡も取らず取れないで暮らせる。通り一辺のメンタルヘルス教育をしても自分には関係ないと思ひ素直に受け入れられない。私も含め誰の中にも無意識の意識の中にあるように思う。また自分の苦しい本当の心の内を人に話す事も無意識の意識の中で鍵をかけている。このように感じるのである。



話 題

ベトナム・ホンゲイ炭坑を訪問して

吉 田 勉 (聖隷健診センター)



1984年に始まった市場経済政策(刷新(ドイモイ))の導入以来、ベトナムは急速な経済発展を遂げつつある。その一方で急速な工業化は、従来からある「古典的な職業病」のみならず、新たな産業中毒や環境汚染問題が大きな課題となってきている。このようななかで1994年以来、松田晋也(産医大)、城内博(産医研)を中心にしてベトナム国立労働保護研究所(NILP)

と様々な分野で共同研究を開始した。私自身は、一昨年1月に始めて、ベトナムを訪問して数カ所の工場を訪問するとともに、日本の塵肺の健康診断方法や塵肺の問題点などについて講義する機会をえた。今回は、松田晋也先生から突然電話をいただき、「炭坑の塵肺の予備調査をしませんか？」とのお誘いをうけ「炭坑に本当に行く」のならとでかけた。

ベトナムの炭坑は、主に北部のOuan Ninh県に集中しており、ことにHongai(ホンゲイ)炭は極めて良質な無煙炭として戦前からよく知られている(なんと、広辞苑にも記載がある)。我々が訪れた炭坑は、ハノイの北東約100kmの所にありベトナム戦争で知られているトンキン湾のなかにあるハロン湾の周辺にある。今回は、NILPの塵肺専門医1名とともに露天掘りの現場、炭坑の診療所、地域の病院を訪問し、じん肺者の胸部X線写真を見ることができた。ベトナムの法規によると、粉じん暴露作業者は年に1度胸部X線直接撮影をすることになっている。そして、胸部X線所見でじん肺の疑いのある事例は、その地方の専門家により確定診断を受けることになっている。また、重症じん肺で労働不能と判断された場合には、75%の給与が5年間、補償として支払われる。

今回は、予備調査ということもありじん肺の疑いのある21例の胸部X線を見ることができた。これらの9割がPR1であり、大陰影や結核合併症例は認められなかった。今回訪問した炭坑の従業員は

4000名(2000名が坑内作業、1400名が露天掘り、400名が選鉱作業に従事)、胸部X線検査も毎年実施している訳ではなく、咳・痰など自覚症状のあるもののみ行っており、この炭坑のじん肺の正確な発生状況などは明らかでない。しかしベトナムのじん肺に関する法律は整備されており、職業医学専門医のじん肺読影能力も高く、必要な財政的・物的援助を行えば、短期間にじん肺管理に関しては、大きな成果が上がるものと期待できる。



露天掘りの選鉱所で



「海の桂林」といわれるハロン湾

シリーズ 産業衛生に携わって

産業衛生に携わって

倉田 千弘 (ヤマハ健康管理センター)



1997年4月からヤマハ㈱の豊岡工場健康管理室に勤務し、9月からは浜松市内のヤマハ本社にあるヤマハ健康管理センターに勤務しています。それまでは、浜松医科大学に勤務し、主に循環器内科を専門とし、とくに心臓核医学の研究に携わっていました。この研究

テーマからはかけ離れた産業医学の分野に突然、飛び込んだわけですが、大学勤務時代にも多少は産業医学にも関わっていました。具体的には、文部省在学研究員として派遣されていた米国から1992年に帰国した時から、医局の指示でヤマハ車体㈱に週2回2時間ずつ非常勤で勤め始め、その後、ヤマハ発動機㈱と合併し社名は変わりましたが、大学を退職するまで5年間お世話になりました。

学費も生活費もアルバイトだけで賄っていた学生時代は当然、アルバイトで明け暮れ、衛生学の講義はほとんど記憶に残っていない有り様です。従って、産業衛生のことなど訳もわからず、勉強のため医師会主催の講習会などに出席してみました。どれだけ身に付いたかは不明ながら、産業衛生について興味を持つ切っ掛けにはなり、かつ他の認定医や専門医をとる勢いで認定産業医も取得しました。そして、非常勤で行う中途半端な産業医活動が本意で、また大学での派閥争いなどにも辟易し、今回、常勤産業医になることを決意しました。

勿論、循環器専門の立場から、産業医としての最大の興味は虚血性心疾患の予防です。大学勤務時にも急性心筋梗塞の疫学調査、あるいは、食事運動療法による虚血性心疾患の進展予防に取り組んだりしていました。このような分野についてはとくに日本は遅れており、急性心筋梗塞発症の実態も正確なデータがほとんどなく、ましてや、虚血性心疾患の一次予防に目を向ける日本の循環器専門医は皆無に近いくらいです。産業医活動が軌道にのれば、是非とも虚血性心疾患の正確な実態を把握し、かつ、その一次予防に取り組むたいと考えています。そのためには、まず産業医全般の業務を理解し、健康管理全般のシステムをしっかりと構築しなければなりません。

ところが、現在の私の業務は、外来診療だけでも午前8時から12時までが週5日(ときに6日)と午後にもう一こま、加えて、計6社の産業医を兼ねるため安全衛生委員会と職場巡視も月6回ずつあり、さらに、全社で常勤産業医が私1名のみで支店や海外の健康問題にも対応しようとし(勿論、全く不十分ですが)、健康管理システム等の構築に専念できない状態です。少なくとも来年度からは一般定期健診における検査結果の判定や印字だけでもコンピュータ化する計画です。将来的には、特殊健診も含めたコンピュータ管理、健診後の合理的な保健指導システム、特殊健診結果を踏まえた有害業務者の教育、…と進めて、積極的な健康管理・支援のできる体制を築いていきたいと考えています。その実現のため、産業衛生学会などを通じ、皆様からの様々なご指導を期待しています。よろしくお願ひします。

学会・研究会

第7回産業医・産業看護全国協議会

牧野 宣一 (J R 東海総合病院)

この会に参加した私の目的は三つ、①産業医部会の幹事会、②ワークショップ(以上19日)、③産業医・産業看護全国協議会(20日)であった。まず良かったのは、「北海道大学学術交流会館」で講堂が2つ、会議場が1つあり、産業医部会、産業看護部会、ポスターセッションが一会場で行われ、且つ会議が快適に聴けた。道外から約150人、道内で130余人の参加者で、北海道の秋の一番良い季節を楽しみながら勉強に励んだ。ワークショップでは4つのテーマを産業医、産業看護職が別々に分かれグループ討議をしてその結果を発表した。グループを一つにした同志、よく気心も理解でき大変有意義であった。地方会でもこうした場を設けるようお願いしたい。産業医部会ではテーマ「分散事業所における産業医活動の実態」を3人のパネラーがそれぞれ自己の担当の職場についての発表で、仙台錦町診療所の広瀬俊雄先生の生協事業所での「業務との関連性が認められれば、「治療費」「通院費」と給与も出る仕組みに感心した。産業看護部会で「職場の変化に対応する産業看護活動」をテーマに山田誠二先生の「最近の産業界における職場変化について」の基調講演があり、パネラー3人のそれぞれの取り組みの報告があった。シンポジウム「産業医・産業看護の育成をめぐる」では経営者(河村通博-松下産業㈱)、行政(三嘴文雄-労働省労働衛生課長)、教育担当(大久保利晃、加藤登紀子-2名共、産業医大教授)から今後の育成法が示された。行政と教育担当者の考えの差が気になった。

地方会理事会

平成9年度第3回理事会

日時:平成9年9月9日(火) 14:00~

場所:名古屋大学医学部鶴友会館2F大会議室

出席者:31名 委任状:40名

1. 報告事項

(1)事務局からの連絡事項(小野)

2. 協議事項

(1)地方会ニュース41号(吉田)

(2)平成9年度日本産業衛生学会東海地方会学会(小林)

(3)第13回産業医・産業保健婦・産業看護婦・衛生管理担当者のための研修会(五藤)

(4)平成10年度東海地方会総会・研修会(竹内)

平成9年度第4回理事会

日時:平成9年10月21日(火) 14:00~

場所:名古屋大学医学部鶴友会館2F大会議室

出席者:31名 委任状:44名

1. 報告事項

(1)事務局からの連絡事項(柴田)

(2)本部からの連絡事項(小森・清水)

2. 協議事項

- (1)地方会ニュース42号 (吉田)
- (2)平成9年度日本産業衛生学会東海地方会学会 (小林)
- (3)平成10年度日本産業衛生学会東海地方会学会 (竹内)
- (4)第13回産業医・産業保健婦・産業看護婦・衛生管理担当者のための研修会 (五藤)

2. 肺がん検診の有効性と最近の動向

- 早期肺がん症例のX-Pも含めて—
加藤 保夫 (岐阜県産業保健センター)

3. その他 一般演題

世話人 立川 壮一 加藤 保夫 柴田 英治

これからの諸行事予定

第13回産業医・産業保健婦・産業看護婦・衛生管理担当者のための研修会

日時：平成10年2月27日(金) 10:00～

場所：産業技術記念館大ホール

第2回職域肺疾患研究会

日時：平成10年3月14日(土) 14:00～16:30

場所：名古屋大学医学部鶴友会館2F大会議室

講演

肺がんの早期診断と治療

—腫瘍マーカーの活用も含めた最近の知見—

堀口 高彦 (藤田保健衛生大学第2病院内科)

演題

- 1. 我が国における職業性呼吸器疾患症例の調査

吉田 勉 (聖隷健診センター)

第11回振動障害研究会

日時：1998年3月7日(土) 13:30～16:30

場所：名古屋大学医学部会議室

演題

- 1. 振動障害患者の皮膚の病理組織学的検索
宮下 剛彦 (岐阜県立下呂温泉病院・病理)
- 2. Simultaneous Measurements of Finger Skin Temperature and Finger Blood Flow in Chain Saw operators
S.M. Mirbod, R.Inaba, H.Iwata (岐大・医・衛生)
- 3. 手腕振動測定・評価 (ISO 5349) の国際規格動向
前田 節雄 (近畿大学・理工学部)
- 4. ISO での振動障害末梢循環機能評価法の検討状況
山田 信也 (名古屋大学)
- 5. ベトナムの振動障害の予備調査結果

榊原 久孝 (名大・医・公衛)

世話人 岩田 弘敏 井奈波良一 松本 忠雄

榊原 久孝

財団法人 **愛知健康増進財団**
 会長 松永 亀三郎
 理事長 赤塚 邦夫
 診療所長 小倉 幸夫
 名古屋市北区清水1-18-4 TEL(052)951-3331

医療法人 **愛知集団検診協会**
愛知健診所
 〒496-0048 津島市藤里町2-3-1
 TEL (0567)26-7328番
 FAX (0567)26-7994番

●トータル・ヘルス・プロモーション・プラン (T・H・P)
 ●作業環境測定 ●各種検診業務
 財団法人 **岐阜県産業保健センター**
 理事長 籠橋 久衛
 多治見市東町1丁目9番地の3
 TEL(0572)22-0115

財団法人 芙蓉協会 **聖隷沼津第一クリニック**
聖隷沼津健康診断センター
 所長 積 惟貞
 〒410-8580 沼津市本字下一丁目895-1
 TEL(0559)62-9882 FAX(0559)52-1019

(社福) **聖隷福祉事業団**
聖隷健康診断センター
 所長 白田 多佳夫
 〒430-0906 浜松市住吉2丁目35-8 TEL(053)473-5501

(社福) **聖隷福祉事業団**
聖隷予防検診センター
 所長 水野 武郎
 〒433-8105 浜松市三方原町3453 TEL(053)439-1111

労働大臣認可
 社団法人 **オリエンタル労働衛生協会**
 会長 鈴木 正雄
 理事長 大武 八郎
 名古屋千種区今池一丁目8番4号
 TEL (052) 732-2200

瀬 岡崎市医師会公衆衛生センター
 岡崎地域産業保健センター
 人間ドック・集団健診・臨床検査
 〒444-0876 岡崎市奄美北2丁目6番地1
 ☎0564 (52) 1572 (代表)

名古屋市医師会協同組合
 名古屋市医師会健診センター
 理事長 高澤 嘉人
 〒461-0004 名古屋市東区葵一丁目4番38号
 TEL(052)937-8460 FAX(052)937-8402

医療法人 名翔会
名古屋セントラルクリニック
 〒457-0047 名古屋南区城下町3丁目14番地
 TEL(052)821-0900(代) FAX(052)824-0655

医療法人
日本生命ヘルスコンサルタント
 所長 原 爽
 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-27-2
 日本生命笹島ビル6F
 TEL(052)582-0751

(財) **日本予防医学協会 名古屋出張所**
健康フォーラム名古屋談話室
 〒461-0002 名古屋市中区代官町39-18
 TEL(052)931-0526・FAX(052)932-7092

謹賀新年



会員の表彰

緑十字賞

岩田弘敏 (岐大・医・衛生)

加藤隆康 (トヨタ自動車)

会員異動

入会

愛知 市丸麻衣子 (三菱重工名古屋)、竹花茂樹 (名古屋国税局)、阿部克之 (キクチ眼鏡)、間宮とし子 (東海銀行)、山本雅英 (山本整形外科)、橋本律 (橋本歯科)、木村敬孝 (三河保健予防協会)、本多豊彦 (名古屋歯科医師会)、大嶽博之 (名古屋鉄道)、花木雅洋 (花木歯科) 静岡 中村晴信 (浜松医大公衛)、古屋公子 (聖隷健診センター) 岐阜 河邊昌信 (NTT東海岐阜) 福井 安永敏美 (関西電力高浜)

退会

愛知 相野長孝 (歯科アイノ)、小川誠三 (瀬戸健康管理センター)、佐藤紀代美 (瀬戸健康管理センター)、新美泰司 (半田市医師会健康管理センター)、市野雅之 (半田市医師会健康管理センター)、福永素典 (大同病院)、山本光司 (山本歯科)、大島正敏 (大島病院)、

井上八千代 (東芝愛知)、早田ア井 (愛治病院)、高井充明、鈴木日美子、杉下孝久 静岡 中村美加栄、相川英雄 (小糸製作所)、飯島謙之助 (浜松赤十字病院)、中村美登利 (資生堂掛川) 三重 伊藤その子 (富士電機三重)、長瀬十一太 (富士電機三重)、富田久代 (本田技研鈴鹿) 岐阜 片桐義博 (岐大病院薬剤部)、大口博敏

編集後記

明けましておめでとうございます。早いもので編集委員として5回目の新年を迎えることになりました。あらためて過去の地方会ニュースを見返してみると、その時々労働衛生(産業保健)の流れと東海地方会をはじめとして学会・研究会等の動向がよくわかります。今年はそのような記事で発刊されるのかな?と期待と不安が錯綜します。昨年暮には土井隆雄さんが宇宙空間で画期的な仕事を成功させましたが、これからの労働衛生活動も地球規模を越えて宇宙空間をもみすえた規模の支援に発展していくのでしょうか。地球環境保護についての京都会議の成果を期待しつつ今年も頑張っていくつもりです。皆様からのご投稿をお待ちしていますのでよろしく。

(鎌田 隆)

次回発行 平成10年 5月 1日

編集責任者 吉田 勉 (聖隷健診センター)

編集委員 (五十音順)

- 井谷 徹 (名市大) 市原 学 (名大)
岩井 淳 (全日本労働福祉協会) 大久保浩司 (東芝四日市)
加藤 保夫 (岐阜県産業保健センター) 鎌田 隆 (本田技研浜松)
後藤 猛 (労働衛生コンサルタント) 五藤 雅博 (旭労災病院)
榊原 久孝 (名大) 高柳 泰世 (本郷眼科)
巽 あさみ (藤田保衛大) 谷脇 弘茂 (藤田保衛大)
松本 忠雄 (刈谷保健所) 山田 琢之 (愛知医大)

医療法人 光生会病院
豊橋市吾妻町137番地
(医) 宏潤会大同病院
理事長 石原 晃
院長 西脇 洋
〒457-0818 名古屋市南区白水町9番地 TEL(052)611-6261
社団法人 瀬戸健康管理センター
理事長 佐藤 良寛
〒489-0809 瀬戸市共栄通1丁目48番地
TEL(0561)82-6194 FAX(0561)85-2466
医療法人 九愛会
中京サテライトクリニック
理事長 黒田 義孝
〒470-1121 愛知県豊明市西川町島原6番地の7
TEL(0562)93-8225(代) FAX(0562)93-0938
(財)東海検診センター
理事長 宮崎 勘治
診療所長 斉藤 俊二
〒410-0003 沼津市新沢町8-7
TEL(0559)22-1157 FAX(0559)23-5078
(医)豊昌会
豊田健康管理クリニック
理事長 加藤 昌平
〒473-0907 豊田市竜神町新生155番地 TEL(0565)27-5550 FAX(0565)27-5036

謹賀新年

平成十年元旦

社団法人 半田市医師会健康管理センター
所長 榊原 幹雄
〒475-0937 半田市神田町1-1 TEL(0569)27-7881
財団法人 三河保健予防協会
理事長 由利 卓也
〒442-0013 豊川市大堀町77番地 TEL0533-86-1515
天野産業株式会社
トータルヘルス研究所
代表取締役 宮本 政雄
〒461-0001 名古屋市東区泉二丁目21番11号
TEL(052)931-0102(代表) FAX(052)931-0104
健診健康総合サービス
(財)全日本労働福祉協会東海支部
支部長 福島 忠良
〒457-0044 名古屋市南区柵下町2-4 TEL(052)822-2525
GHL 社団法人 加茂医師会立
総合保健センター
〒505-0046 美濃加茂市西町7丁目169番地
TEL(0574)25-5324 FAX(0574)25-0480
介護用品のデパート
ヤガミホームヘルスセンター
〒460-0012 名古屋市中区千代田2-16-30
☎(052)251-6670 YAGAMI